

| | | | |
|--|---|------|------------------|
| イベント名 | 第 25 回交流会「配慮の表現について、考えてみませんか？— 教師・学習者・現場の声に耳を傾けて」 | | |
| 実施委員会 | 交流委員会 | 開催場所 | オンライン |
| 開催日時 | 2023 年 6 月 3 日(土)13:00~14:50 | 参加人数 | 26 人（話題提供者、委員含む） |
| 参加資格 | 会員・非会員 | 参加費 | 無料 |
| イベント概要（案内文など） | | | |
| <p>本企画は、企画を担当した日本語学習経験者とその周りの方の日常の体験が出発点になっています。その体験というのは、相手に丁寧さや配慮を伝えたかったけれど伝わらなかったという体験です。そこで、自分の伝えたい丁寧さや配慮をどのような表現で伝えられるのか、また、1 人の日本語学習者として、配慮についてみんなで考えたいと思いました。このような思いを受けて、日本語教師であるもう一人の企画担当者は自分の実践を内省し、今までの教え方を批判的に捉えなおしました。そのうえで配慮とは何か、失礼さとは何かを問うような問題提起をします。さらに、教師と学習者だけではなく、外国人とともに働く現場の方の声も聞いてみたいと思いました。</p> <p>そこで、今回の交流会では、学習者の立場、教師の立場、働く現場の方という異なる立場から、日々感じていること、考えていることを話題提供したうえで、丁寧さや配慮について広く意見を交換したいと思っています。</p> | | | |
| 活動報告 | | | |
| <p>当日はまず、学習者編、教師編、現場編として話題提供を行いました。学習者編では、「丁寧さを伝えたかったけれど伝わらなかった」「ありがたい自分と使うことばとの間にギャップがある」など、インタビューによって明らかになった、学習者が持つ悩みについて報告しました。教師編では、どのように配慮の表現を扱ってきたかを振り返ったうえで、「配慮とは何か」「教師として何ができるか」など現在抱えている悩みについて報告しました。現場編では、認知症ケア施設の管理者の方（長岡福祉協会こぶし園梅田様）から、外国人材を受け入れている現場の様子や日々感じていることについて話していただきました。ノートを使って日本語学習のフォローをしていることのほか、「ことばの失礼さはあまり感じない」「接し方、表情でできることがある」「ことばを超えた光るものがある」「どんな現場でも共に働く人のためにできることがある」というお話がありました。</p> <p>次に、グループに分かれてディスカッションを行いました。ディスカッションでは、学習者のアイデンティティ、学習者の立場、相手との距離感、気持ちとことばとの関係、教師としてできること、指導の仕方、現場との交流機会の必要性、学習者が言いたいことと相手の受け取り方とのギャップ、学習者の表現に対する周囲の気持ち（寛容さや許容度）、コミュニケーション自体のあり方など広く様々なことについて意見交換がなされました。</p> <p>最後に、各グループでの話し合いについて全体共有をし、話題提供者から感想を述べました。</p> <p>実施後のアンケートには「同様に興味を持っている方々と交流できた」「いろいろな視点から問題点や課題について考えるいい機会になった」「専門的な観点や実体験に基づいて、配慮や丁寧さとは何か、どのようにあらわすものなのか、何を考えて表すべきなのか、どのように向き合っていたらいいかを活発に話し合いました」といったご意見ご感想が寄せられました。</p> | | | |